



1月24日は給食記念日です。

戦後、学校給食が再開された日を記念して給食記念日ができました。今では私たちは毎日給食を食べることができ、その種類もごはんやパン、肉、魚、卵、野菜、そして果物やデザートがつくこともあります。

しかし昔は今のように様々な食材を使った給食ではありませんでした。この期間を通して、給食の歴史を振り返り、食べ物の大切さや、作る人の思いを知り、感謝の気持ちを持って給食を食べるようにしましょう。



給食の歴史

明治22年

山形県の私立忠愛小学校で貧しい児童を対象に昼食を提供しました。これが学校給食の始まりと言われています。その後、だんだん日本中に広がってきました。

昭和16年頃～

戦争が始まり、食べ物が不足するようになったので、給食を続けられなくなる学校が多くなりました。

昭和21年

戦後の新しい給食が始まりました。12月24日⇒12月24日は冬休みの時期で、給食が終わっている地域もあることから、1か月後の1月24日を「給食記念日」としました。

昭和56年

大阪市で月1回の米飯給食が始まりました。大阪市で「はし」が導入されました。牛乳が瓶から紙パックに変わりました。

平成7年

牛乳が瓶から紙パックに変わりました。

平成30年



きゅうしょく 給食タイムマシーン ～昔の給食を見てみよう～



明治22年



山形県の忠愛小学校
で提供された初めての
給食です。

昭和22年



戦後の給食です。外国
からの支援物資を使って
作っていました。

昭和27年



くじらのたつたあげ
肉は貴重な
栄養源として給食にもよ
く登場していました。

昭和44年



この頃から、飲みものが脱脂粉乳から
牛乳へと切り替わりはじめました。

昭和52年



カレーライスは今も昔も
人気メニューのひとつです。



給食調べをしてみよう

お家人や親せきの人に聞いてみよう。

牛乳はBIN?
パック?

食器はどんな
ものだった?

人気の
メニューは?

ごはんとパンは
どっちが多かった?